

あなたもカウンセラー

教育相談部 根本文弘・遠藤美代子・渡辺和夫

今回は、「開発的な指導援助」の一例として、将来への向上心をどのように高めたらよいかを、児童生徒と教師への意識調査を基に考え、具体的な指導援助の方法について述べます。

| | |
|------|--------------------|
| 99号 | 所属感を高めるための指導援助 |
| 100号 | 自己理解を深めるための指導援助 |
| 101号 | 自尊感情を高めるための指導援助 |
| 102号 | 将来への向上心を高めるための指導援助 |

将来への向上心を高めるための指導援助

自己実現を図るためには、児童生徒が自己理解を基に、将来への見通しをもって、向上しようとするのが大切であると考えられる。

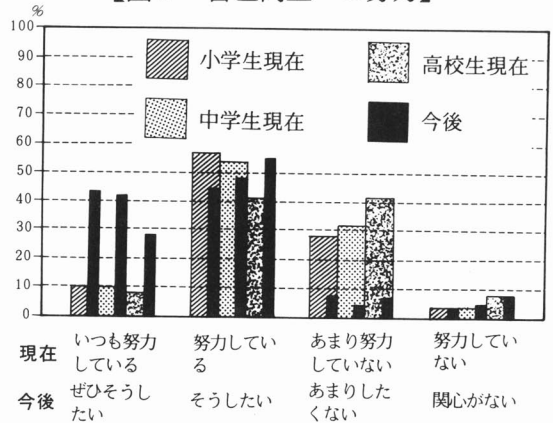
そこで、児童生徒の将来への向上に向けての意識と実践について調査した。

昨年度の「研究紀要」の中から、その一部を挙げてみる。

「自分をより良くしようと、努力していると思いますか。」という質問から図1のような結果がみられた。

「いつも努力している」「努力している」を合わせると、小学生67%、中学生64%、高校生50%と、小・中・高等学校と進むにつれて低くなっている。今後については、「ぜひそうしたい」「そうしたい」を合わせると小・中・高校生ともに約90%の児童生徒が自分をより良くしたいと思っている。

【図1 自己向上への努力】



次に「あなたは、将来の職業や進学したい学校などについて決めていますか。」という質問では、図2のような結果がみられた。

「考えているが未定」「気になるが考えていない」「関心がなく決めていない」を合わせると中・高校生では約70%の生徒が具体的な見通しが立てられず決めかねてい